

令和7年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

上尾市立今泉小学校

1 育成する能力

自ら考え、主体的に行動を起こす児童の育成

2 研究概要

(1) 取り組むSDGsの目標

1年生 ゴール4 ゴール15
2年生 ゴール4 ゴール11 ゴール12 ゴール17
3年生 ゴール11 ゴール17
4年生 ゴール11 ゴール12 ゴール14 ゴール17
5年生 ゴール1 ゴール2 ゴール12 ゴール14 ゴール17
6年生 ゴール11 ゴール17

(2) 研究主題

持続可能な未来をつくるSDGsの実現に向けた教育の実践
～2030年への挑戦 自ら考え、主体的に行動を起こす今っ子の育成～

(3) 研究仮説

生活科・総合的な学習の時間を核として、児童が探究的に学習に取り組める教材・題材の設定、単元構成とその見直し、思考ツール等の活用を行った対話的な活動を取り入れ、地域や県内の教育人材とともに課題解決を年間通して行えば、自ら考え、主体的に行動を起こす児童の育成を行えるだろう。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働した企業・団体

1年生 大谷西保育所、スターファーム保育園、しののめキッズパーク保育園、双葉台幼稚園
2年生 しらぎく幼稚園、上尾鍼灸整骨院、セキ薬局川店、十連寺、アイダ設計、スターボックス上尾壺丁目店、埼玉カルチャー、ホワイト急便川店、スターファーム保育園、フジモト金物店、セブンイレブン今泉店
3年生 新座市立東野小学校、さいたま水族館、あげおいなFM、北本自然観察公園
4年生 来ハトメ工業株式会社、株式会社ジャパンビバレッジエコロジー、イトーヨーカ堂アリオ上尾、スーパーメイト、環境科学国際センター、上尾市役所、ウォータースタンド株式会社、新井紙材株式会社埼玉事業所
5年生 セブンイレブン・ジャパン、アリオ上尾、ホットもっと子ども食堂、スターボックス上尾壺丁目店、ローソン、井上スパイス工業
6年生 上尾市上下水道局、上尾市役所危機管理防災課、上尾市消防本部、陸上自衛隊大宮駐屯地、今泉地区避難所運営協議会、上尾市防災士協議会、埼玉上尾メディックス、株式会社シャトレーゼ、元ハイパーレスキュー隊員、あげおいなFM、ナガホリ農園、公益財団法人味の素ファンデーション、J:com、プラムデザイン株式会社
いずみ学級 公益財団法人日本環境協会、草木染め団体

(2) 連携・協働した主な内容

1年生 幼保小連携授業

- ・4つの保育園、幼稚園の園児を招いてランドセルの背負い方や教科書の読み方、学校の過ごし方を1年生が生活科の授業で教える。

2年生 地域の商店

- ・町たんけんで地域の商店をめぐり、SDGsに関連する取組をインタビューし、新聞にまとめたり、フードロスに関する取組を紹介するポスターを店頭に掲示してもらったりしている。
- ・地域にSDGsに取り組む商店があることを知り、SDGsの取組が身の回りにたくさんあることを知り、自分にできることを考える。

3年生 新座市立東野小学校

- ・今泉小学校に住む生き物を調べ、もっと多くの人々が動植物に関心をもって生活できるようにするために、2年間交流のある他市の生き物の魅力を伝えることで、地域の違いを理解するとともに上尾市や今泉小学校の魅力を再確認し、上尾市に住む喜びを理解できるようになる。

4年生 株式会社ジャパンビバレッジエコロジー、イトーヨーカ堂アリオ上尾 など

- ・身の回りの企業や団体が環境問題にどのように貢献しているかを知ることから始め、環境問題を身近に感じられるようにする。環境問題の解決のために自分たちにできることを考え、環境問題解決のインフルエンサーとして、考えたことを発信していく。

5年生 セブンイレブン アリオ上尾 スターバックス など

- ・企業が取組んでいるフードロスの取組について講義を受けることで、自分たちにできることを考える。考えた取組について、地域の企業や団体に提案し、協力を依頼する。

6年生 上尾市消防本部、陸上自衛隊、あげおいなFM など

- ・上尾市の防災力を高めるために何ができるかを考え、自分たちが主体となって取組を進めていくために、様々な企業や団体に協力を依頼する。企業や団体と協力し、様々な取組を展開している。

4 研究内容

1 はじめに

令和3年答申、教育課程部会における審議のまとめでは、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要であると述べられている。

また、持続可能な社会の創り手になるためには、児童、教員、保護者・地域、近隣の企業・団体と連携した上で、SDGsの諸問題について「様々な課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けさせる教育」が推進される必要がある。本校は令和5年度から3年間、埼玉県SDGs教育推進事業のモデル校として研究を行っている。

研究主題『持続可能な未来をつくる SDGsの実現に向けた教育実践～2030年への挑戦 自ら考え、主体的に行動を起こす今っ子の育成～』に沿い、児童と保護者や地域、企業や団体との連携した取組を行い、児童の主体的な学びにつながる実践を行っている。本資料では、第6学年における総合的な学習の時間の防災に関する実践について紹介する。

2 実践内容

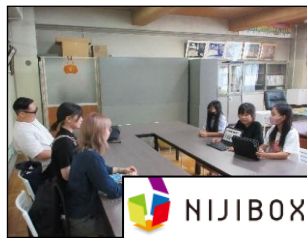
(1) 生活科・総合的な学習の時間を核とした各教科領域との連携を明確にした年間単元配列表

学校教育目標及び研究仮説を実現するための手立てとして、「学校教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントを踏まえた授業改善を図るために、生活科・総合的な学習の時間を核とした各教科領域との連携を明確にした年間単元配列表を作成する」ことを行った。

6年生を例にすると、国語科「デジタル機器と私たち」は、提案文の構成を考え、実際に提案を行う単元である。総合的な学習の時間で児童が行いたい活動に協力をいただくため、提案文を作成し、企業や団体に直接プレゼンテーションの交渉を行い、承諾を得た企業や団体を相手に、国語の授業で作成した提案文を基にプレゼンテーションを行い、協力を依頼した。

【表1】〈年間単元配列表〉

総合的な学習の時間へ生かしたい他教科の資質・能力との関連を示した。



【株式会社 NIJIBOX】
広告デザイン企業
配色や文字、デザインについて、指導・助言を依頼。



(2) 教育人材の発掘・活用

①企業・団体との連携

児童は上尾市の防災意識向上のための課題と解決方法を考え、プロジェクトごとにチームで活動している。

ポスターチームは内閣府主催の防災ポスターコンクールに出展し、入賞以上を収めることで自分たちの思いやポスターの意図を伝えやすくなると思った。児童は株式会社ニジボックス様にアポイントメントを取り、実際に国語科で作成した提案文を活用して、プレゼンテーションを行った。その際、身の回りにある広告がどのように作られているか質問したり、実際に様々な企業の広告をデザインしている方々に自分たちの活動の意図を説明したりしながら、ポスターをデザインする際のポイント等を指導・助言いただけるよう、協力を依頼した。

配色や字のバランスや意図を考えること、ポスターを見てもらいたい対象を決めることが重要であると教えていただいた。その指導・助言を生かした作品が以下の2点である。

【内閣府防災ポスターコンクール】

・近隣の施設や小中学校に掲示



②近隣小中学校、保護者や地域との連携

避難所運営に児童も関わらざるべきではないかと考えたチームの児童は、社会科で自衛隊が被災地で活躍している様子を学習したことで、陸上自衛隊大宮駐屯地の自衛隊の方々にアポイントメントをとり、実際の被災地の活動の様子や避難所の様子について講義を受けることができた。

また、実際に避難所運営の関わり方として、2年前に本校に設置されたマンホールトイレの設置方法を知っている人が校内で限りなく少ないことを知り、学校の様子を把握する6年生が設置することができれば、避難所開設・運営を行う際に割く人的リソースを他に回せるのではないかと考えた。そこで、上尾市上下水道課と上尾市防災士協会の協力を得て、マンホールトイレの設置方法を学んだ。その後、防災の輪を広げるためには、在校生や保護者、地域の方々に伝えていく必要があると気付き、保護者や地域の方々を招いて設置方法の伝達を行った。地域の防災意識の向上に貢献し、地域のつながりが大切であることに気付けた。



【陸上自衛隊大宮駐屯地との連携】

- ・能登半島地震被災地の状況
 - ・子供たちにできる避難所での活動
- ※防災白書に基づいた説明



【近隣中学校との連携】

昨年度の6年生からマンホールトイレの設置方法を詳しく聴くために、中学生を講師として招いた。



【保護者や地域の方との連携】

- ・マンホールトイレの設置方法の伝達
- ・伝達におけるフィードバック
- ・今後の活動についての要望を受ける。

地域の自主防災組織や行政にも児童防災に関する活動が認知され、令和8年2月26日（木）に上尾市と自主防災組織が本校の児童と共催で防災フェスタ in 今泉を開催した。地元コミュニティラジオ局やケーブルテレビの協力も得ながら、上尾市民をより多く集め、防災意識を高める活動の集大成を行った。

(3) 児童教職員の実態調査と教育課程の評価改善

①授業改善・教材開発

- ア) 教科等横断的な指導を行う上での視点を共有
- イ) 思考ツールを活用して、児童の思考を見える化

活動計画 本心に伝えたいことを精選する

思考ツール
ピラミッドチャート

活動計画をたてよう①

知らせたいこと 白飯糰の横にある、リサイクルボックスの中に資源が入らないようにする。正しいリサイクルを呼びかける。

知らせたい相手 家族、1、2年生、学校全体、地域の人、(上尾市) 警察、地域の人、友達) にベクトルボトムなどを正しくリサイクルしてほしいから。

知らせたいわけ 手作業で資源を取り除くから、資源が多すぎると、取り除くのが大変になってしまうから。(危ないから)

学級で課題設定を行う際には、思考ツール「ピラミッドチャート」を使って話し合い、内容を精選した。グループで相談しながら1つずつ付箋を動かすことをルールにしたことで、話し合いが活発になった。話し合いが活発になることで、しっかりとした理由をもつことができ、その結果「知らせたいこと」を決定できた。

4年生「上尾市SDGsインフルエンサーになろう」



ウ) 企業や団体との連携のデータベース化

学年・学級	企業・団体名	ステータス	授業の形式	自日付	時間	場所
6年1組	トーモク株式会社	埼玉県S	相互タイプ	2024/09/11	5~6時随時	教室
4年	東ハト工業株式会社	埼玉県現	学年講話	2024/09/02	5校時	体育館
4年	生活協同組合コープからい	埼玉県現	学級講話	2024/09/03	2~4時随時	教室
4年	花王グループカスタマーマーケット	埼玉県現	学年講話	2024/09/17	5~6時随時	体育館
4年	ヤマト運輸株式会社	独自開発	学年講話	2024/09/18	5時随時	体育館
4年	TerraCycle Japan合同会社	独自開発	学年講話	2024/09/24	2~4時随時	体育館
4年	株式会社ジャパンビレレッジエコロ	埼玉県現	学年講話	2024/09/25	5~6時随時	体育館
4年	イトーヨーカドーアリオ上尾店	埼玉県現	施設見学	2024/09/11	10:30~11:30	アリオ上尾
3年	上尾市農工課	独自開発	学級講話	2024/09/03	2~4時随時	各学級
3年	上尾市農政課	独自開発	学年講話	2024/09/04	5時随時	体育館
3年	上尾市生涯学習課	独自開発	学年講話	2024/09/05	5時随時	体育館
3年	上尾市行政経営課来校	独自開発	学年講話	2024/09/06	5時随時	体育館
いずみ学級	上尾市環境経済部環境政策課	独自開発	学級講話	2024/09/26	5時随時	教室

企業や団体との連携をいつ、どのタイミングで、どのように行ったかをデータベース化することによって、次年度にも活用できるようにする。

- ①行政による出前授業
- ②埼玉県の環境応援隊
- ③埼玉県SDGs協力企業
- ④独自開発

の3つの種類分けを行った。

企業や団体の連携のハードル

令和7年度は50団体と連携を図った。

②年間単元配列表の修正

- ア) 各学期に年間単元配列表の加筆修正
- イ) 学年ごとの取組をデータベース化

③児童、教員、保護者への意識調査

- ア) 児童への意識調査 (年3回)
- イ) 教員の意識調査 (年2回)

各教科と総合的な学習の時間(生活科)を関連付けた実践事例集を作成し、他教科で学んだことを総合的な学習の時間(生活科)で指導するイメージを共有できるようにした。また、思考ツールの活動場面や、児童が思考ツールに記入したものを載せることで、誰でも思考ツールの活用方法や児童への助言のイメージをもてるようにしている。

他にも企業や団体との連携例や児童の変容の様子などをまとめていく。

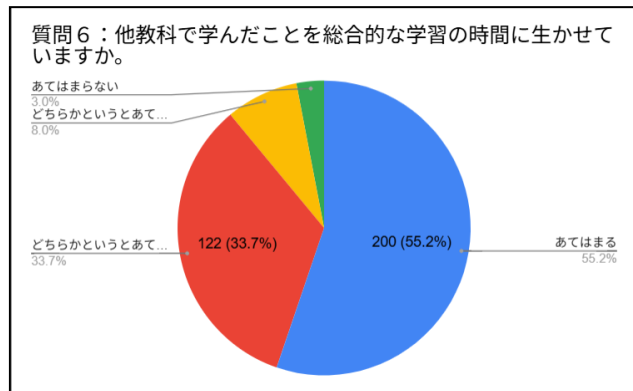


3 実践における成果

(1) 上尾市学力調査における変容【学力向上の側面】

生活科・総合的な学習の時間と国語を結び付けることで学習の関連に気付かせることができた。児童は、企業・団体との連携を目指すことで文章を書くこと、話を聞いたり伝えたりすることなど国語を学ぶ意味を実感を伴って理解できた。今年度の6年生も、こうした学習を行うことで上尾市学力調査において、文章を書く力が全国平均と同等か、それ以上の成果を収めた。特に、自分の立場を明確にして、「予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く」問題では、上尾市の正答率が54.1%、全国が65.5%に対して、本校の6年生は72.2%と高く、企業・団体にプレゼンや交渉を多く行った学級は、77.4%とその正答率が更に高まった。相手意識をもって国語の学習にも取り組み、意見文や提案文を書いた成果が学力調査で測れたと捉えている。

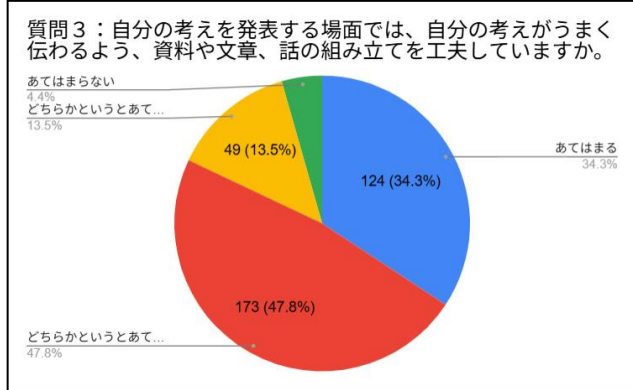
〈令和7年11月 対象3～6年生〉



年間単元配列表を用いた指導を行った結果、児童が教科や領域、特に総合的な学習の時間との関連に気づき、学習したことを生かしているか、活用できているか、児童の実態を把握するための問い。

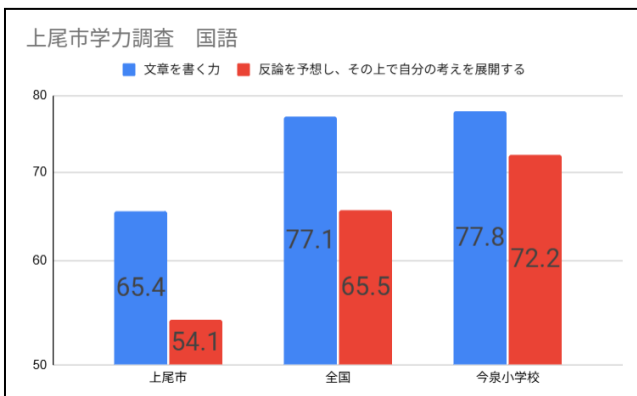
11月の意識調査では88.9%と6月よりも1.3%低下してしまっただけでなく、これまで断続的に向上してきたが、教員の入替により年間単元配列表の活用で意識の差が出た場面でもある。

〈令和7年11月 対象3～6年生〉

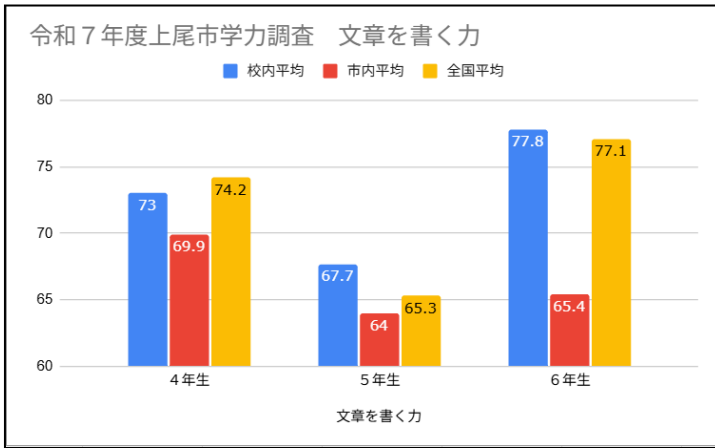


本校が令和2～4年度まで国語科の研究を行ってきたことを生かすために、総合的な学習の時間と国語科の関連を強く意識した年間単元配列表を作成した。その成果を問うため、全国学力・学習状況調査の質問紙項目32番と同様の問いを行った。質問紙項目31番に対する全国平均が68.6%、埼玉県75.7%という結果に対し、本校では6月に83.2%、11月に82.1%と高く、企業や団体との連携を行うことによって相手意識をもって学習することができ、書くことや話すことに対する学習意欲が高まっていることがわかる。

〈令和7年12月 6年生〉



令和7年度の上尾市学力調査において、「文章を書く力」全体を表す数値として、上尾市が65.4%、全国77.1%に対し、今泉小学校は77.8%と成果が出ていると言える。また、「相手の反論を予想し、その上で自分の考えを展開する」問題では、上尾市が54.1%、全国65.5%に対し、今泉小学校は72.2%と高く、企業や団体にプレゼンを多く行った学級は77.4%と正答率はさらに高くなった。相手意識、必要感をもって学習に取り組み、意見文や提案文を作成したり、プレゼンを行ったり、企業団体との連携を図った授業により、国語科の指導事項を身に付け、生かすことができた児童が多いと考える。



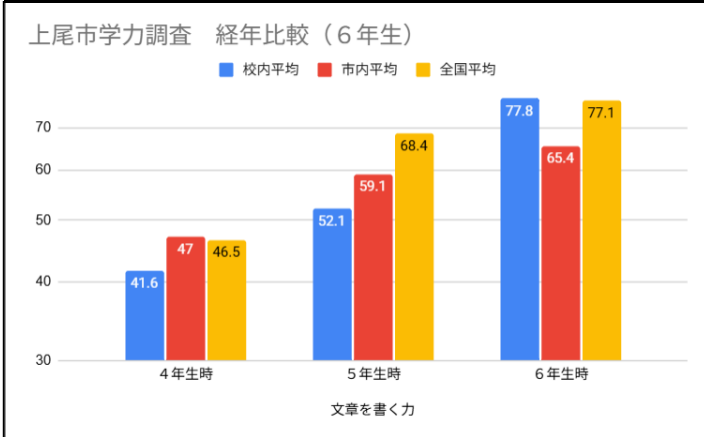
〈令和7年12月 6年生〉

同調査における文章を書く力を計る問題の各学年の平均は、どの学年でも上尾市の平均を上回り、5年生と6年生は全国平均を上回っている。
各学年で国語科との関連付けを行うことで指導事項の定着が図られたものと考えられる。



審査会の様子

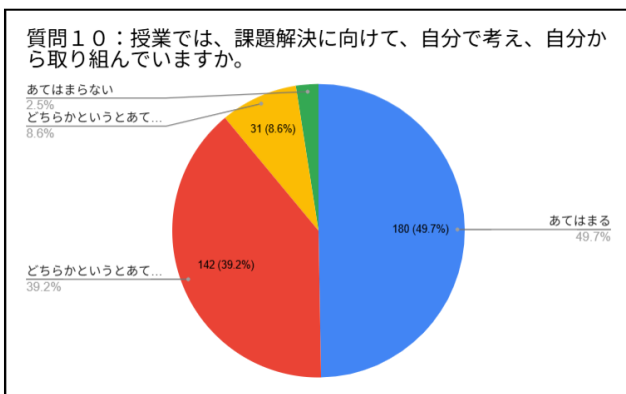
〈現6年生の令和5～7年度の経年比較〉



文章を書く力の定着に課題のある学年が、企業団体との連携を行うにあたり、児童の目指す活動や企業連携に対し、社会課題解決につながるのか国語科の単元のゴールに審査会を設定した。
児童は審査会で校長や担任を相手に自身の活動の価値や活動を方向性を説明し、社会的課題の解決につながるか判断してもらった。児童の説明に対し、教師が考えの矛盾や説明の足りない部分を指摘することで、どうすれば相手を納得させられるのか国語の既習事項を生かすとともに資料など情報の得方を考えるようになったことが要因と考えられる。

（2）児童の主体的に学びに向かう姿勢を計る意識調査の変容

全国学力・学習状況調査における質問項目32番に基づいた意識調査を5月に行い、その変容を調べたところ「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」児童が2年前と比較して、微増ではあるが年々増加傾向にある。また、全国学力・学習状況調査の質問調査における回答結果でも2年前の6年生の数値を比較しても4ポイント以上向上していることから研究の成果が表れていると言える。



〈令和7年11月 対象3～6年生〉

児童の主体性を図る調査項目では、昨年度より3ポイントの向上が見られた。
中学年は87.7%、高学年では90.0%と、総合的な学習の時間で探学的な学習を行ってきた学年の方が主体的に学習に取り組んでいると言え、総合的な学習の時間の学習での積み重ねが学習に肯定的な影響を与えることがわかる。

【全体の変容 3～6年生の意識調査】

年度	令和5年度2月	令和6年度6月	同6年11月	令和7年6月	同7年11月	変化
3, 4年生		85.3%	85.0%	87.9%	87.7%	+2.4%ポイント
5, 6年生		87.8%	90.4%	90.3%	90.0%	+2.2%ポイント
学校全体	84.7%	86.4%	87.7%	89.1%	88.9%	+4.2%ポイント

【図2 6年生の変容 全国学力学習状況調査 質問項目32番】

年度	4月	2回目	変化
R5 6年生	79.8%	3月 90.6%	+10.8ポイント
R6 6年生	79.7%	11月 91.3%	+12.6ポイント
R7 6年生	84.4%	11月 89.2%	+4.8ポイント

(3) 外部からの評価

総合的な学習の時間に取り組み、作成した成果物は、児童自らの意思で、それらが社会や地域でどのように評価されるかを知ったり、その後の活動に生かしたりするために積極的にコンクール等に参加したり、保護者や地域の方へ意見を求めたりした。

ぼうさい甲子園の2年連続全国2位という評価や、新聞記事に取組が紹介されたことをとおして、自身の取組の価値を理解し、更なる意欲向上につながった。また、ぼうさい甲子園の表彰式に参加することで各地の優れた取組を知り、自分たちに足りない“地域との深い関わりをもつこと”と“取組を継続すること”という新しい課題を発見することができた。今年度は、上尾市防災士協議会の主催する防災イベントに参加したことで今泉小学校の防災に関する取組に関心を持ってもらうことで昨年度よりも協働的な学習を行うことができた。

こうした3年間継続した防災に関する取組は、上尾市役所も高く評価してくださり、今年度は児童の学習発表会の場として設定した防災フェスタ in 今泉を市役所のバックアップを得ながら、集客とイベント運営に関する助言をいただくことができた。これまで協働的な学習を行ってきた地元コミュニティFMや地域のイベントを通して出会ったケーブルテレビのご協力もあり、イベントはCMやラジオ番組での告知、当日は取材などを行い、広く今泉小学校の取組を発信していただけることになっている。

他の学年でもフードロス削減のための取組を大手コンビニエンスストアと3年間協働的に学習を行ってきたことが評価され、来年度は県内で唯一のパートナーシップを結び、商品開発に携わることになっている。

① ぼうさい甲子園への参加

令和5年度小学校の部 優秀賞【全国2位】

令和6年度小学校の部 優秀賞【全国2位】

令和7年度小学校の部 継続は力なり賞

〈令和6年12月21日(土) ぼうさい甲子園〉



兵庫県公館にて『ぼうさい甲子園』の表彰式及び取組発表会に参加し、今泉小学校第6学年の総合的な学習の時間の防災に関する活動を発表した。他地域の優れた学校や団体の防災教育に関する取組を知り、自分たちの活動の成果と課題を考えるよい機会にできた。また、来年度の6年生への引継ぎ資料を作る際の材料として活用することができた。

〈プレゼンテーション資料の一部〉

与えられた5分間の中で、6年生の防災に関する取組を資料を基にして説明した。自分たちの活動の中で、特に紹介したいことや頑張ったことを伝える際には、抑揚を意識したり間を置いたりするなど伝えたいことと伝え方を意識し、プレゼンを行うことができた。



② 令和6年度年防火ポスターコンクール 入賞 【ニジボックスの指導を受けた児童の入選】

③ 毎日新聞社による記事掲載令和6年12月3日(火)朝刊

④ 同社

令和7年 1月21日(火)朝刊

④NHK総合「明日を守るナビ」での取組紹介 令和6年12月15日(日)に放送

⑤ 埼玉教育の教育実践に本校の課題研究と関連する防災教育について執筆 令和7年2月発行

- ⑥ 教弘会報埼玉No. 275の研究・実践成果報告書に本校課題研究の取組について執筆
- ⑦ 埼玉県学校安全優良学校表彰 令和8年1月23日

(4) 連携した企業や団体の声

〈株式会社ニジボックス クリエイティブ室室長 上田様〉



普段クライアントに向けてデザインのプレゼンテーションをしたり、トークイベントなどでデザイン関係の登壇を行ったりするメンバーですが、子どもたちを相手に行うことはあまりなく、私たちにとってもとても貴重な経験になりました。

授業の後には、防災ポスターを実際に作るチームから、パソコンを使ってプレゼンテーションをしてもらいました。今の時点でどんなポスターを作ろうとしているのか、ポスターコンクールで入賞するとどんな効果があるのかなどといったわかりやすいプレゼンテーションを聞くことができ、子どもたちの成長スピードや実践する力に驚かされました。

今泉小学校の子どもたちが防災ポスター制作に全力で取り組み、その後の学校生活やそれ以外でも活かせるようなヒントを手に入れてくれたら幸いです。

_____は、特別授業としてニジボックス様には、「色」「文字」「イラスト」「主役を引き立たせる」の4つの視点からデザインのテクニックについてご指導をいただきました。

※株式会社ニジボックス様の社外広報より抜粋

※ 株式会社ニジボックス様は、本来出前授業などを受け付けている企業様ではありません。今回、特別にご指導いただきました。ご厚意でご協力いただいた企業ですので、株式会社ニジボックス様への問い合わせ等はお遠慮ください。

(5) 令和8年度に向けた課題

総合的な学習の時間の年間指導計画は1学年ごとにテーマが異なるため、企業や団体と連携し、自分たちに何ができるかが見え始めてきた段階で次の学年に上がり、次のテーマで学習を始めることになってしまっている。実際に、児童からは次の年も同じテーマでやりたいという意見も出ている。

企業や団体と連携を行うことによって見えてきた課題を児童自身も感じているため、自分たちが調べてきた情報や自分たちが行いたい活動と保護者や地域、企業や団体のニーズと合っているか精査する必要があることに気付き、計画の立て方や学習の取組方がこれまでのやり方では間に合わないことを児童や教員が実感している。

3学期の総合的な学習の時間の学習として、児童からは保護者や地域への発信を行っていくとともに、次の学年に自分たちの取組を引き継いでもらうための資料作りや、情報提供の時間を設けたいという願いも出ており、毎年、0から課題設定を行っていたものを昨年度の児童の取組をブラッシュアップしていくことで、よりよい社会に変えていくことはできないか、それぞれの学年で検討を始めている。また、2年間をとおした年間指導計画を作成することも検討し、児童が存分に探究的な学びを行うとともに、地域に変容を起こせるような十分な成果を出せるまで取り組めるような計画を立てていきたい。

令和7年11月19日に行った本発表では、参加者53名のうち83%の参加者が実現可能な実践モデルであると評価されたことや本校で作成している企業連携シートや年間単元配列表を市内で共有し、市内で行っている小中一貫教育のための研究を行う学校へ情報を提供し、3年間で積み上げたものを今度は他校に磨き上げていただき、児童の主体的な学びの実現および様々な社会問題を解決するSDGsの17の目標を達成するための資質・能力の育成に役立てたいと考えている。